

消防団員が体幹トレーニング！ 故障者ゼロで操法大会を目指す！

消防基金が「消防団員の公務災害防止取組事例集」
を発行

消防団員等公務災害補償等共済基金

消防団員の公務災害を防止するため、各地の消防団で様々な取組が実践されています。

例えば、広島県福山市消防団は、消防操法において全国でも有数の強豪として知られていますが、長期間にわたるポンプ操法訓練で故障者を出さず、操法大会にベストな状態で出場できるようにするため、スポーツトレーナーのアドバイスをを受けて体幹トレーニングやストレッチなどを取り入れた身体づくりを行っています。



福山市消防団の取組

各消防団員の柔軟性を把握し、それぞれの関節可動範囲に適した動きを設定した上で、両手の自由が利かない状態で走るためのトレーニングやパワーポジション（普遍的な腰の角度の取り方）を繰り返すことにより、合理的な動きが身に付き、過剰な負荷を掛けずに消防操法のスピードアップを達成しています。

事務担当者
からの引継

スポーツトレーナーによる 体幹トレーニングの導入

担当者からの
アドバイス

事業化・予算化に向けてのスケジュールと作業内容

作業工程	実施にあたっては、期待するトレーニング内容について、トレーナーと共有して決めていくことで効果的な指導につながる。ポンプ操法に有効なトレーニング方法と言葉で言っても伝わらなく、ため、動画や実物の訓練をトレーナーにみてもらいながら指導内容を話していくことが重要となる。
1 事業づくり(企画立案)	● 11月～12月 作業担当 市消防団事務局担当者
2 消防団幹部との調整	● 11月～12月 作業担当 消防団幹部、市消防団事務局
3 予算調整	● 1月 作業担当 市消防団事務局
4 講師(スポーツトレーナー)との調整	● 1月 作業担当 市消防団事務局
5 講習会	● 2月 作業担当 消防団員

また、長野県下伊那郡喬木村では、消防団員の生活習慣病を予防するため、消防団事務局と保健福祉課が連携して、法定健診（定期健康診断）より詳細な項目で健康診断を実施するとともに、その結



喬木村消防団の取組

果を数年分まとめて綴じられるようにした「健康ファイル」を各消防団員に配付し、経年的な身体状況を比較できるようにしています。

その上で、保健師や栄養士が消防団員に対して個別に、健診結果の解説や日常生活で留意すべき点を指導したり、消防団員から気になる体調などの相談に応じています。

消防団員等公務災害補償等共済基金（消防基金）では、このような各地の消防団が日頃の消防団活動の中で実践している公務災害防止のための取組をまとめた「消防団員公務災害防止取組事例集」を作成し、全国の市町村等に約4,000部を配付しました。消防基金ホームページから閲覧・ダウンロードすることも可能です。

既に消防団で実践されている公務災害防止の取組を紹介することで、市町村等の消防団事務担当者や消防団幹部に対し、あらためて消防団員の公務災害防止対策の必要性を認識してもらうとともに、公務災害防止対策を企画・立案する際の参考としてもらうことを狙いとしています。

このため、各事例の紹介に当たっては、写真や参考資料なども用いて、できるだけわかりやすく説明することを心掛けるとともに、「事務担当者からの引継」のコーナーを設けて、事業化・予算化に向けてのスケジュールや作業内容のノウハウを伝えてもらうなど、この事例集をハウツー物として使用することができるように工夫を凝らしています。

全国の消防団員数は、平成30年4月1日現在で84万3,661人となり、年々減少傾向にあります。消防団員の公務災

害発生件数は、過去10年間の年間平均が約1,300件で、ほぼ横ばいの状態が続いており、その中には毎年度数名の殉職者が含まれています。

他に本業を持ちながら消防防災活動を行う消防団員については、公務災害により長期間休業したために失業したという例もあり、無事に活動することが重要であると言えます。

こういったことから、市町村等には、消防団員が安心・安全に活動できるように、公務災害防止対策を十分に果たすことが求められていますが、現実に目を向けると、その対策は十分とは言えないのが実情であり、改善の余地が多く残されています。

消防団事務担当者や消防団幹部におかれましては、この事例集を活用していただき、消防団員の公務災害防止対策の導入・定着を図られるようお願い申し上げます。

この事例集は、消防基金ホームページから閲覧・ダウンロードが可能です。
【消防基金HP】→【業務紹介】→サイドメニュー【公務災害防止】→【公務災害防止対策調査研究事業】

